
金融危機がブラジル経済に与える影響

November, 27th, 2008

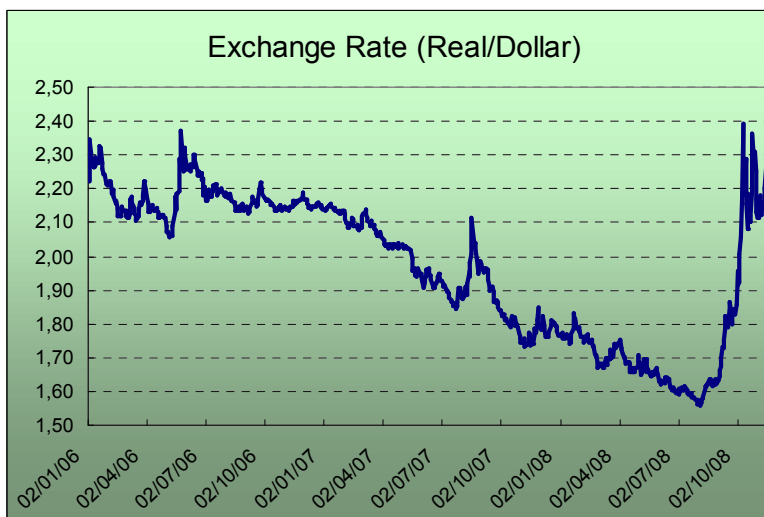
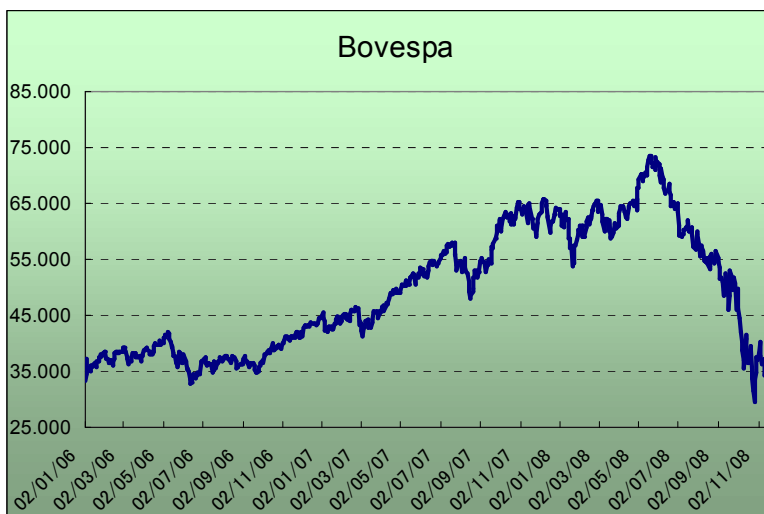


SMBC

SUMITOMO
MITSUI
BANKING
CORPORATION

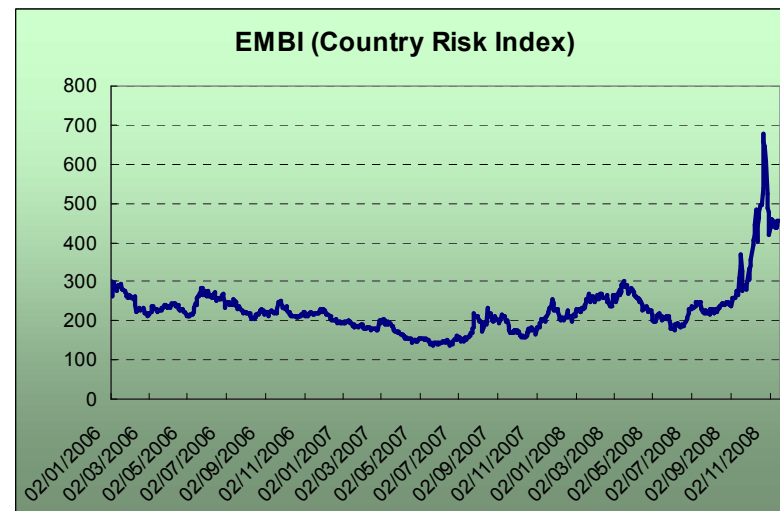
世界的な景気拡大からリーマンショックまで

- 世界的な景気拡大を背景に、2003年以降世界の株式市場は右肩上がり上昇基調を維持。
- 資源価格全面高とともに、資源国であるブラジルへの資金流入も加速。資源通貨レアルも上昇。
- 2006年以降、米金融機関とオイルマネーが世界経済へ潤沢な資金を供給し、株高、資源高の上昇ピッチがさらに加速。
- リーマンショックをきっかけに、世界的に深刻な信用収縮が発生。疑心暗鬼に陥ったインターバンク市場にて資金がとれない異常事態が発生。手許流動性を確保するために、株式、資源、コモディティからの資金引き上げが発生。
- 世界的に、株価、資源・コモディティ価格の暴落。これに併せ、資源通貨、資源国株式であるブラジルも売られる。



構造的改革により強くなったブラジル

- 2000億ドル超の潤沢な外貨準備を保有し、ドル建資産は対外ドル建債務を上回る。
- 潤沢な外貨準備を利用し、中央銀行が機動的に為替介入を実施。輸出ファイナンスや通貨スワップ市場へも資金を供給。
- 公的債務もGDPの39%程度と1998年以来最低水準にまで低下。
- GDPに占める輸出の割合は12.2%に止まり、内需主導の経済へ移行。
- ブラジルの金融機関はサブプライム関連資産を殆ど保有していない。
- 国際基準が8%の中、BIS規制に準じた自己資本規制を制定。格付毎にリスクウェイトされた総資産に対し、11%の自己資本比率を保持することを義務付ける。
- 厳格な引当基準を定めており、ブラジルの金融機関の資産内容は良好。



今後のブラジル経済について

今後のリスク要因

- 米国発の金融危機による更なる信用収縮
- 世界的なコモディティー価格の更なる下落
- 世界的な景気減速の影響と輸出環境の悪化(ブラジル輸出の14%米国、21%EU、10%中国)
- レアル安による輸入品価格の上昇が消費へ与える影響
- 金融派生商品による大規模な損失計上
- 2010年のブラジル大統領選挙を控えた政策の転換

今後の見通し

- 短期的には金融危機の影響は極めて大きく、決して逃げ切れないものの、中長期的にはセーフサイドにいる一インターナショナルバンクの共通的な見方
- 過去の金融危機対比、中央銀行が機動的な危機対応能力を有しており、金融システムは良好
- 金融セクターへの影響は限定的
- 資源保有国の強みー成長の潜在性、持続性、安定性
- ブラジルの真の実力が試される時代に突入 2009年はまさに勝負の年
いかに政府と中銀がこの難局を上手に舵取りするかが、一流国の仲間入りのひとつのポイント



SMBC SUMITOMO MITSUI
BANKING CORPORATION
